



冊子を販売します。二冊 1000円(送料別)

五〇〇円が「唐丹子供支援」として使われます。多くの方にこの本を読んで頂き、未来の創造者たる子供達の成長を見守る力になる事を願い、ご購入をお薦めします。

(連絡先) 高館千枝子: tchiko@cocoa.ocn.ne.jp

浅野富治男 Tel: 090-1314-9900

『陸中海岸を訪ねて』

— 旅のおわりに —

「逆に元気を貰いました」。慰め励ましに現

地(被災地)に出向いた人達の言葉です。旅から帰って数日後、唐丹の児童館から葉書が届きました。子供の字で「うさぎありがとう!」と大きく書かれ、兎を手にした子供達の写真がプリントされていました。

自分のいたたまれない気持ちを慰め励ましに行った様なもので、兎がその旅を取り持ったのでした。以前、聞いた教訓です。「他人から、十の物を受けたら、十以上の物を返しな

さい」今回の旅は、十の物を持って行ったら、十

以上の物が帰って来た。そんな、陸中の旅でした。



平成二十四年四月二十八日



浅野 富治男 著

— 発行に寄せて —

高館 千枝子

浅野富治男さんの唐丹訪問を機に、東日本大震災被災地訪問『陸中海岸を訪ねて』が唐丹町内を巡回しました(7/4~7/31)。被災地訪問20日間の滞在記は、あの当時、被災地で暮らす人々の心情と荒涼とした被災地の姿を伝えるエッセイで、「2011.3.11」が浅野さんを東北へと駆り立てた、深く辛い悲しみ、止めようのない被災地への熱い思いが伝わってきます。私の手元に戻り、皆様の感想を読み終えたあなた、心が震え出し、しばらくの間、硬直状態に…。震災の真ただ中で過ごした、厳しい生活の「生の声」を初めて聞いたからです。心を開き、正直でありのままの気持ちを綴って下さった、唐丹の皆様から感謝申し上げます。

「浅野富治男作品鑑賞会」から、予期しない新たな行動が生まれました。その一つが「巻紙エッセイの回覧」です。二つ目は、唐丹の皆様震災当時の辛くのしかかり離れる事なかった思いが文字化された事。浅野さんの真心に応えようとする、唐丹の方々の純粋な気持ちが、心に重くのしかかり話すことすらままならなかった、あの当時の思い、辛い経験が、私たちの心にも届きました。震災から一二年経て、新たに生まれた**「強固な絆」**と言えましょう。

私は、感謝と感動の渦に呑み込まれています。唐丹希望基金に関わる全ての方と、広く世の人々に読んで頂きたいと思い冊子に編集し発行しました。感想をお寄せ頂ければ幸いです。

「希望は連帯を生み、連帯は平和を創りだす源である。」

(発行2022年9月1日)